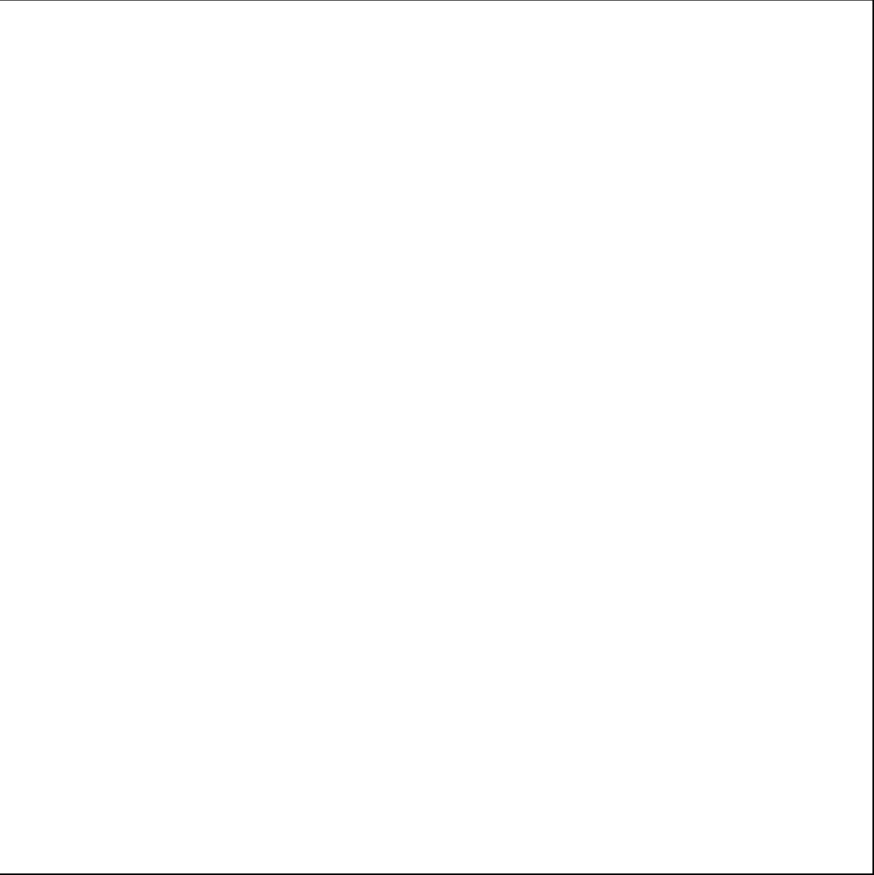


ノジベレと三本の髪の毛

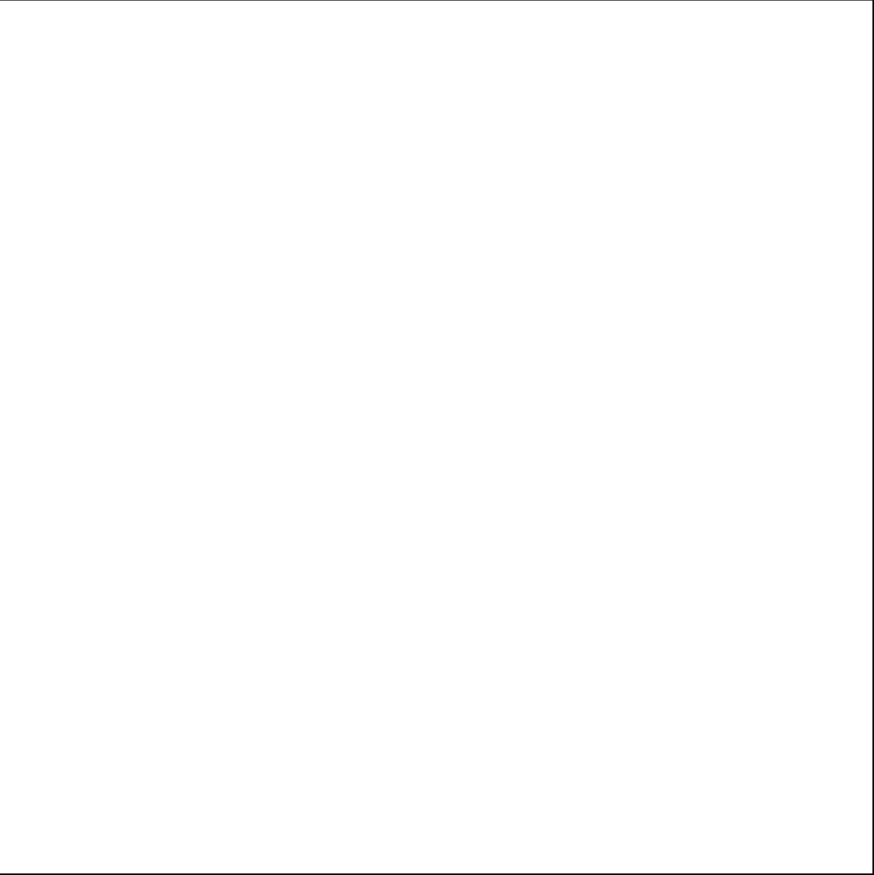
 Tessa Welch
 Wiehan de Jager
 Masato Tanaka
 Japanese
 Level 3

(imageless edition)

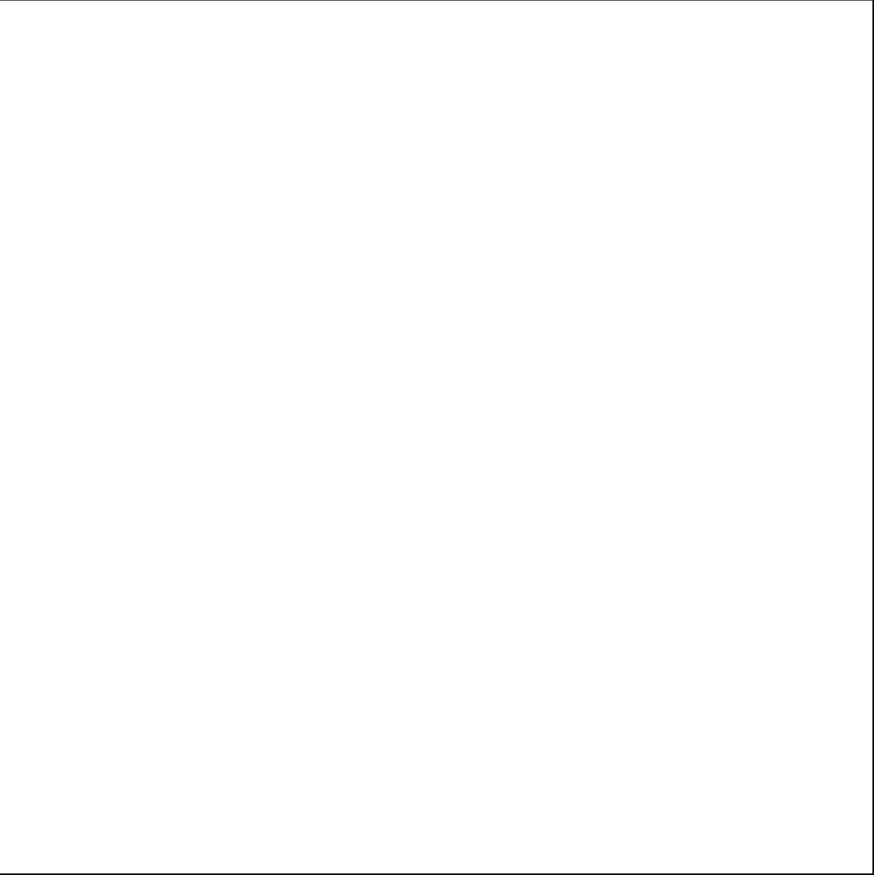




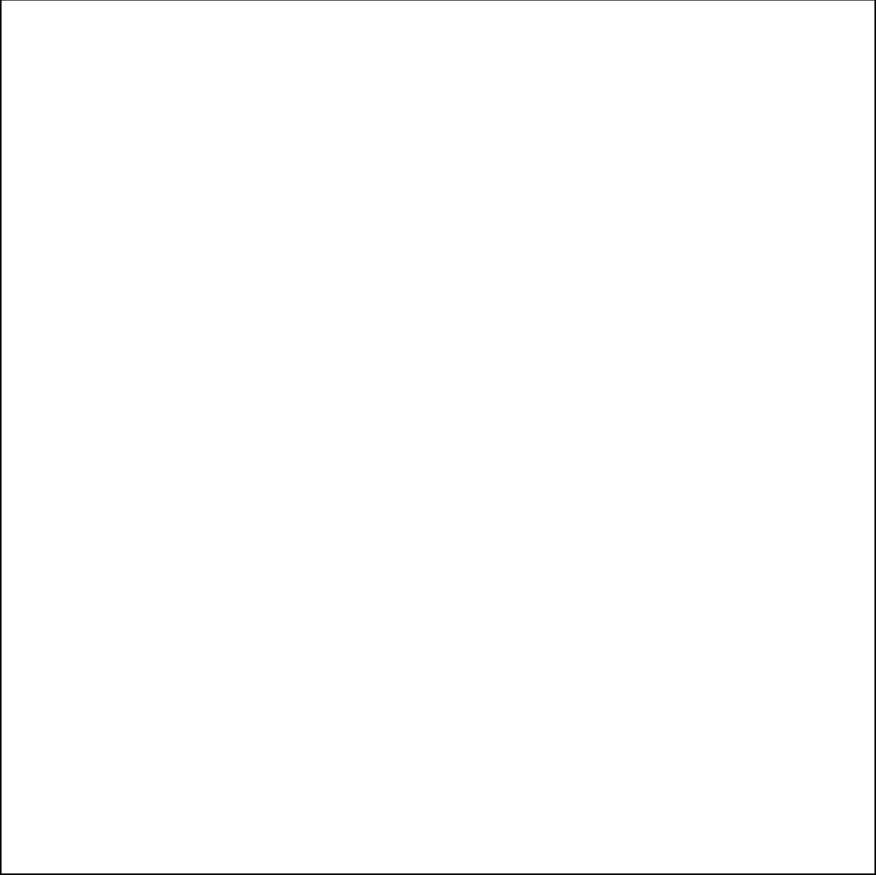
むかしむかし、三人の女の子が薪を集め
に出かけました。



その日はとても暑く、三人は川へ泳ぎに行きました。三人は水遊びをしたり水の中を泳いだりしました。

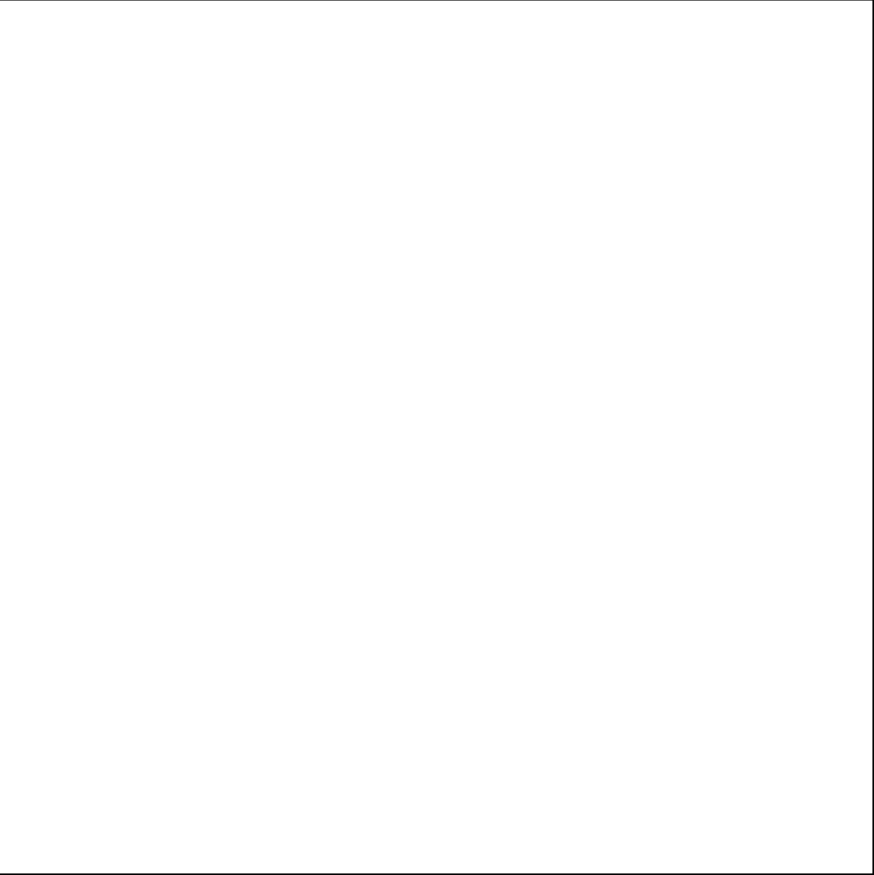


突然、三人はおそい時間になっていることに気がつき、急いで村に帰ろうとしました。

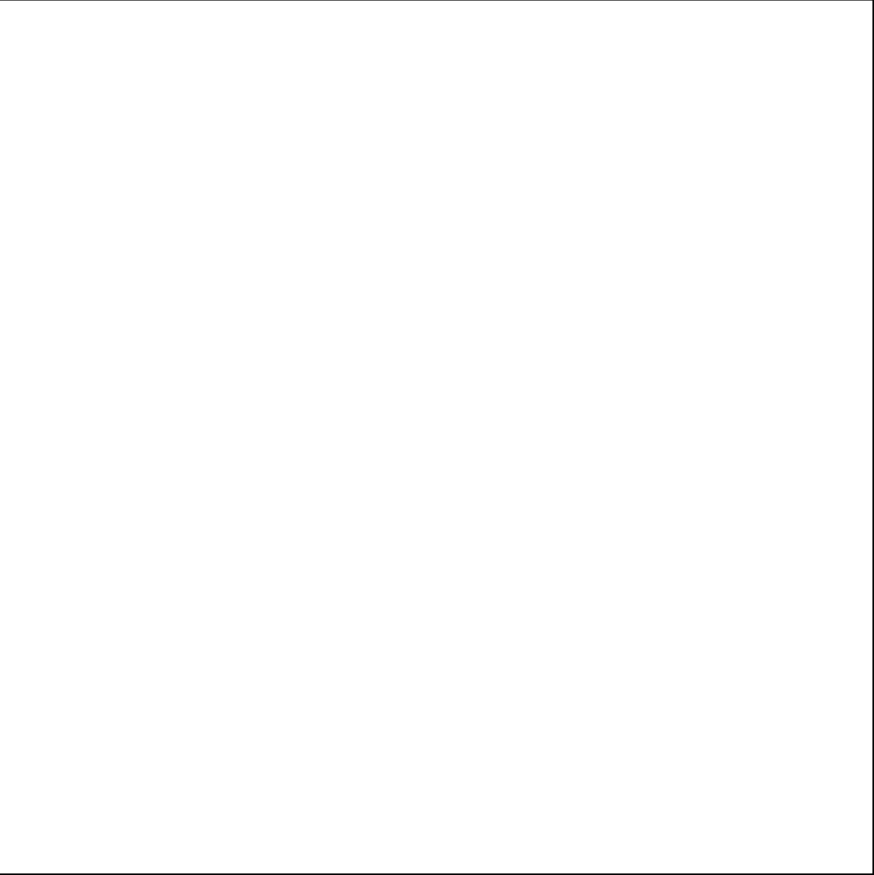


村の近くまで来たところで、ノジベレが首元に手を当てました。ノジベレはネックレスを忘れてきてしまったのです。

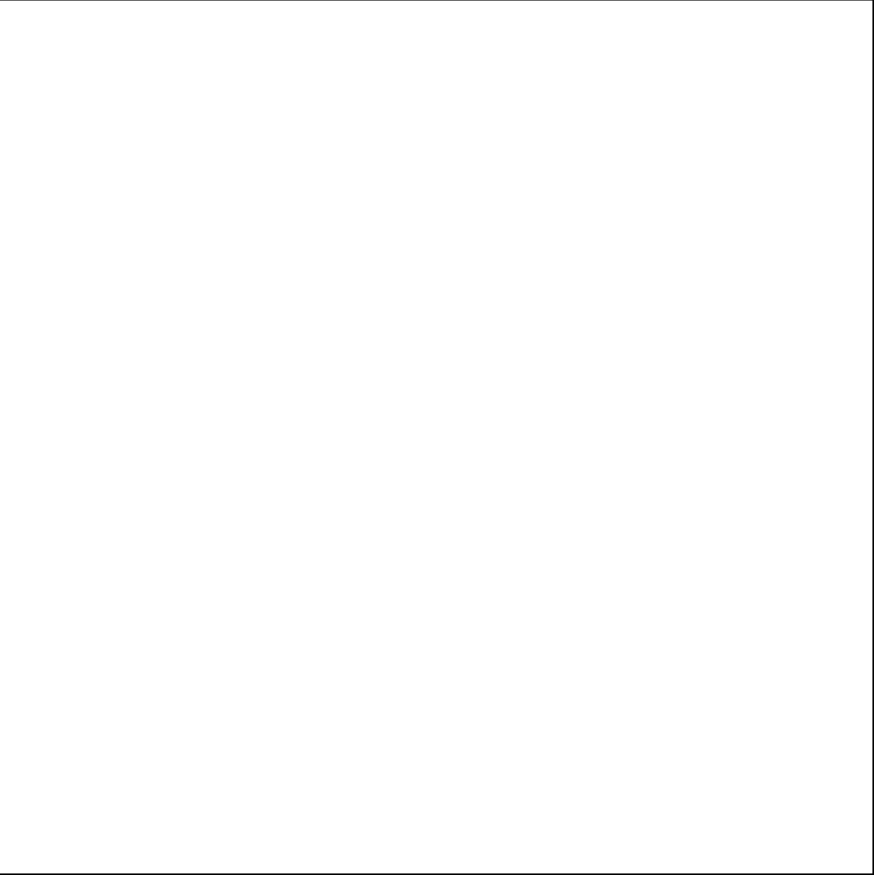
「お願い、一緒に戻って！」と彼女は二人に頼みました。しかし二人はもう時間がおそすぎると言いました。



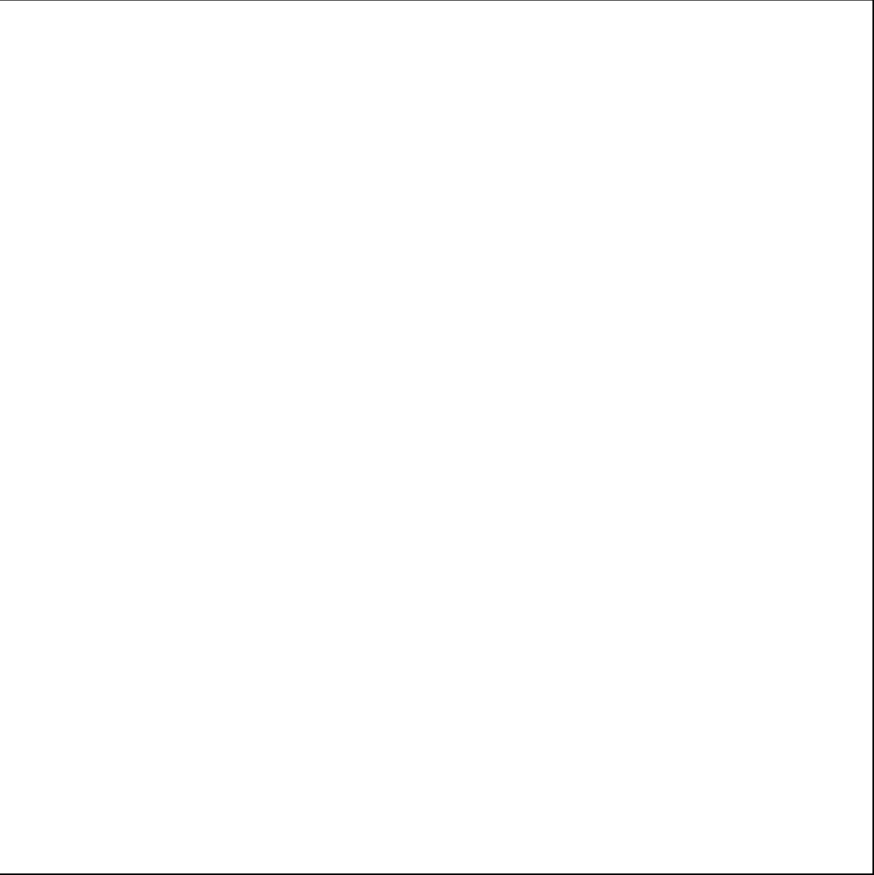
ノジベレは一人で川に戻ることにしました。ノジベレはネックレスを見つけると村に急ぎました。しかし、彼女は夜道で迷ってしまったのです。



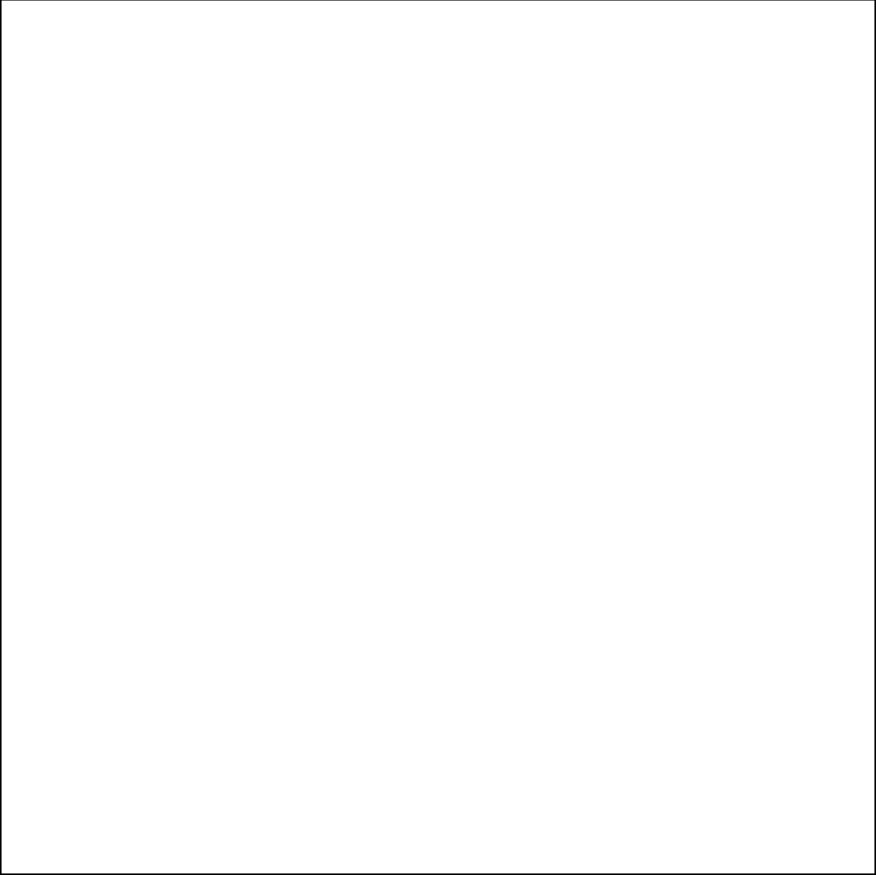
遠くに小屋の光が見えました。そこに急いで向かい、扉をたたきました。



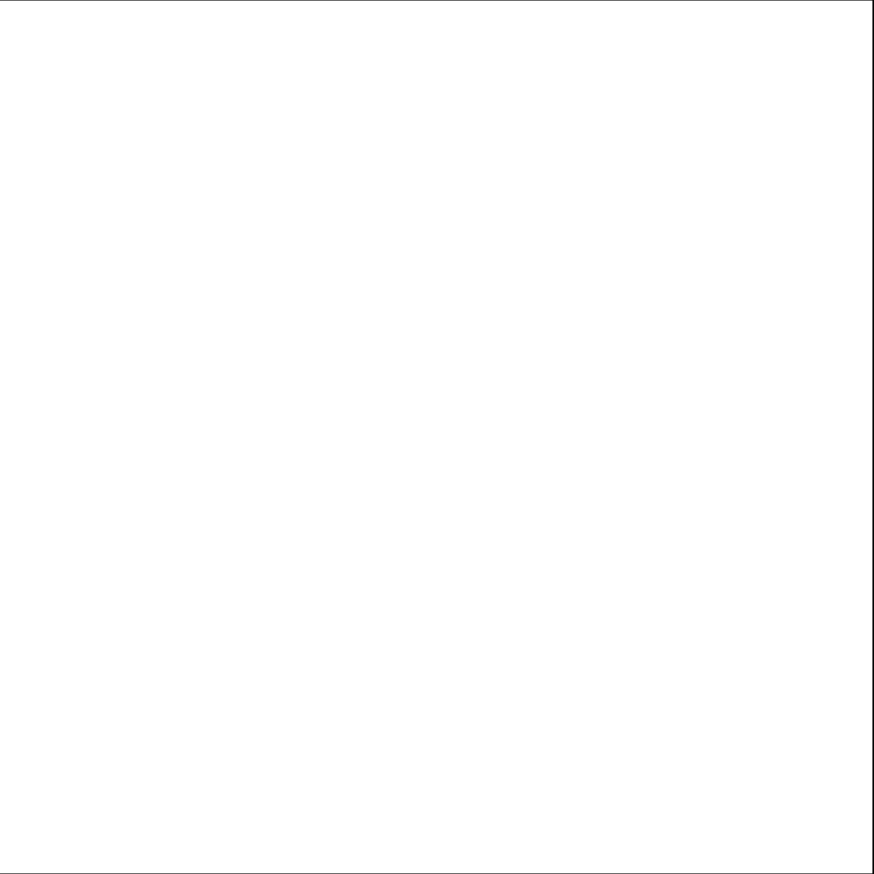
驚いたことに、犬が扉を開けて、「何がほしいんだい？」と言いました。「迷ってしまったので寝る場所がほしいのです」と彼女が答えると、犬は「おいで、じゃないとかみつくよ」と言いました。



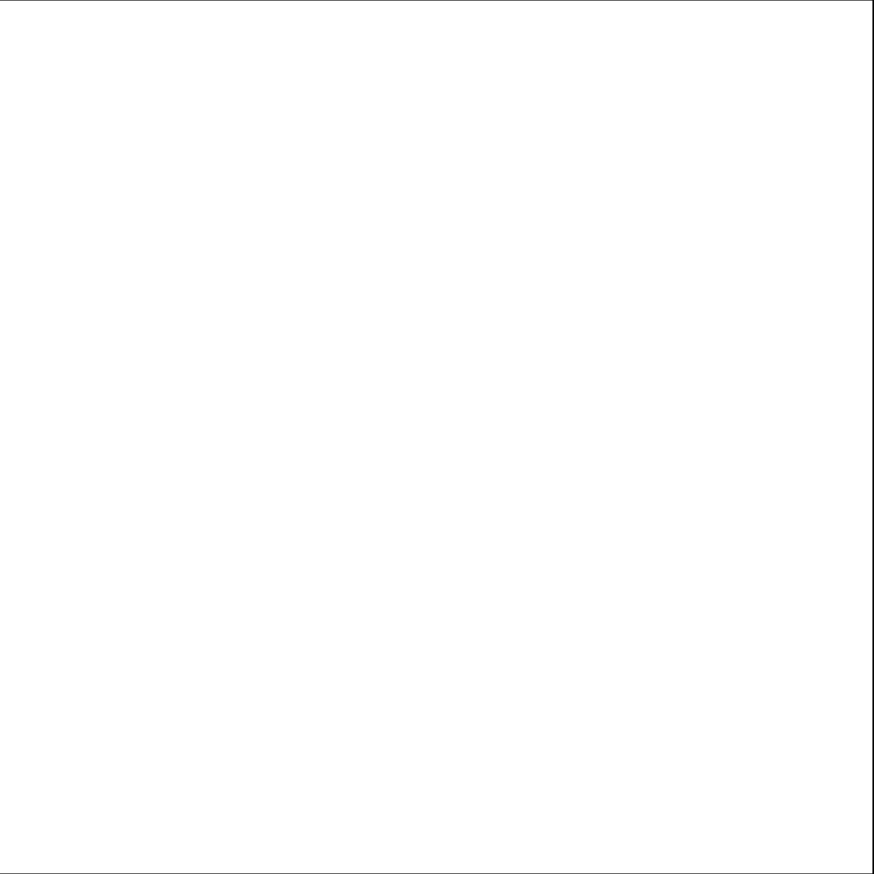
中に入ると、犬が「何か作ってくれ」と
いいましたが、ノジベレは「犬にごはん
を作ったことなんかないわよ」と言いま
した。すると犬は「作らないとかみつ
くよ！」というので、ノジベレはごはんを
作りました。



すると、「ベッドを用意しろ」と犬は言いました。ノジベレが「犬のベッドを用意したことなんかないわ」と答えると、「用意しないとかみつくよ！」というので、彼女はベッドを用意しました。

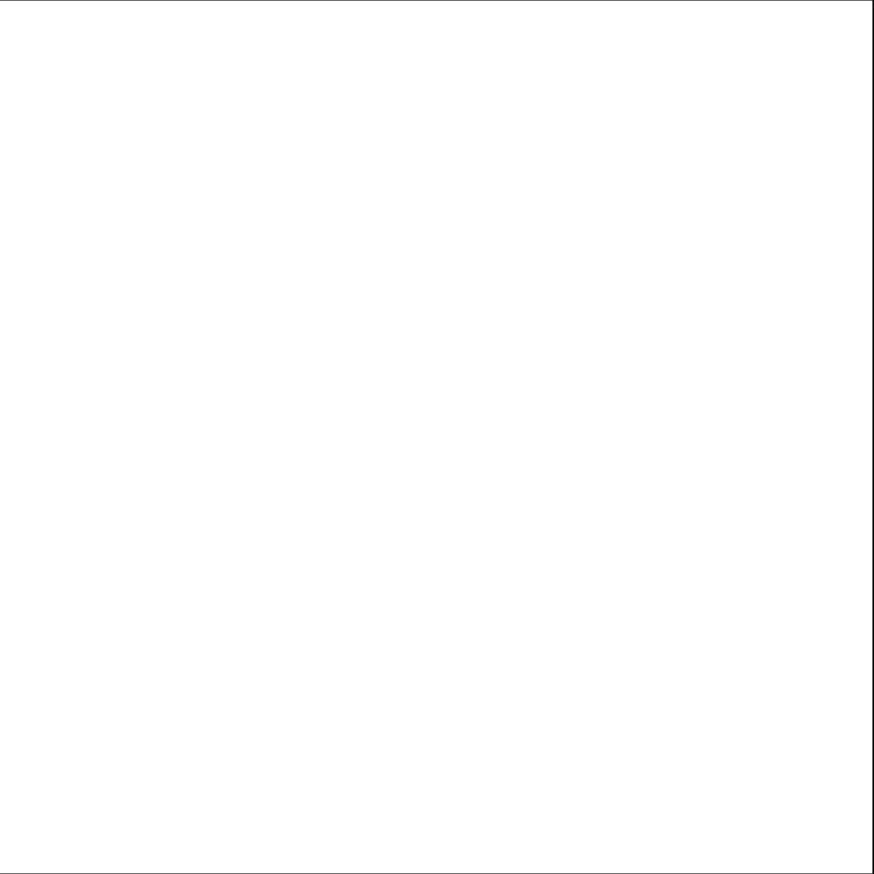


ノジベレは毎日犬のために料理やそうじ、せんたくをしました。ある日犬がこう言いました。「今日は友達のところに行かなきゃ行けないんだ。帰ってくる前にそうじやせんたくをして、何か作っておくんだよ。」



犬が出て行ってすぐに、彼女は自分のかみの毛を三本抜きました。一本をベッドの下に、一本を扉の後ろに、もう一本を囲いの中に置くと、できるだけ速く村へ向かって走りました。

犬は家に戻るとノジベレを探しました。
「ノジベレ、どこにいるんだい！」と叫びました。すると、「ベッドの下にいるよ」と一本目のかみの毛が言いました。二本目が「扉の後ろにいるよ」と、三本目が「囲いの中にいるよ」と言いました。



すると、犬はノジベレが自分をだましたことに気がつきました。犬は村に向かって走り続けましたが、村ではノジベレの兄弟が大きな棒を持って待っていました。犬はふり返って走りさっていき、それ以来現れることはありませんでした。



Storybooks Canada

storybookscanada.ca

ノジベレと三本の髪の毛

Written by: Tessa Welch

Illustrated by: Wiehan de Jager

Translated by: Masato Tanaka

This story originates from the African Storybook (africanstorybook.org) and is brought to you by [Storybooks Canada](http://storybookscanada.ca) in an effort to provide children's stories in Canada's many languages.



This work is licensed under a Creative Commons
[Attribution 3.0 International License](http://creativecommons.org/licenses/by/3.0/).